



ニョイスミレ

1、平成 29 年度作業報告－3(最終報告)

平成 29 年度の植生回復作業も終わり、伐採した木の処理も完了しました。今回は処理した木の量が昨年よりかなり多く、木質チップとしてリサイクルした分が 21.01 トン、焼却した分が 9.81 トン、合計 30.82 トンになり、昨年の約 1.5 倍になりました。これ以外にも、薪として利用している分は重量を量っていませんが、少なくとも 3 トン程度はあったと思います。処理しきれなかった太い幹や抜根した根は湿地周辺の林縁部に積み上げてあります。作業日数は延べ 25 日、参加人員は延べ 587 名、バックホーによる作業は延べ 7 日間です。多くの方にご参加いただき、順調に作業を進めることができました。ありがとうございました。平成 29 年度の作業は平成 28 年度に木を伐採した一の沢湿地の重機による抜根作業、O・X・Y 地点の木の伐採と重機による抜根作業、J 地点の木の伐採作業が主なものでした。

1) G・S 地点(一の沢湿地)

一の沢は G・S 地点の境に、両地点にまたがるようにあります。右上写真は作業前の状況ですが、切株からはヒコバエが伸びて地面がよく見えない状態です(中央から右奥)。

右下写真は作業後の状況で、抜根作業をしたところはチャートの礫が目立って全体が白くなっています。3 年後には多くの植物が復活すると予想しています。手前の枯草の部分は G 地点で作業前は森だったところです。平成 25 年度に伐採し、平成 26 年度にバックホーで抜根作業を行いました。

抜根後 3 年目の平成 29 年度にはイヌノハナヒゲが優勢な湿地になりました。

今回、G・S 地点で抜根作業をした面積は約 1,300 m²でした。



G・S 地点作業前(2017 年 9 月 7 日)



G・S 地点作業後(2018 年 3 月 28 日)

2) H地点

H地点（右上写真）の作業面積は約300㎡、伐採した木は600本でした。伐採作業はまだ途中で終わっており、今年度の作業で更に西側（写真奥）の伐採を進める予定です。



H地点作業後（2018年4月5日）

3) J地点

J地点（右下写真）の作業面積は、指定地内が約200㎡、西側の民有地部分は約1,800㎡、伐採した木は1,274本でした。

木道沿いの指定地側（写真左側）だけにヌマガヤやミズゴケが見られますが、写真中央から右側を重機で抜根してネザサやコシダの根を除去すれば、画面全体に広く湿地が再生できると予想しています。



J地点作業後（2018年4月20日：北から）

4) O・X・Y地点

O・X・Y地点の作業面積は、O地点が約600㎡、X地点が約100㎡、Y地点が約300㎡で、合計約1,000㎡でした。伐採した木は、O地点が959本、X地点が64本、Y地点が27本で、合計1,050本でした。

O・X・Y地点は木の伐採後すぐにバックホーによる抜根作業を行うことができました。ネザサやコシダの根の層を除去することにより、水路がはっきり見えるようになりました。今年の夏以降には埋土種子から多くの湿生植物が発芽してくると予想しています。



O・X・Y地点抜根作業前（2018年2月18日）



抜根作業後（2018年5月9日：西から）

2、平成 29 年度ナガバノイシモチソウの大規模植生回復作業

豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、2013 年 4 月から葦毛湿原と同様の大規模植生回復作業を行ってきました。これまでの作業で、木の伐採を指定地中心部、南側、北側、東側と進めてきました。大規模植生回復作業前の 2010 年の状況等は、葦毛通信 No. 51 に記載しています。

平成 29 年度は南側の木を大規模に伐り、日照を十分に確保しました。右上写真は作業前の状況です。10 時 45 分頃の写真ですが、木の影が伸びているのが分かります。12 時過ぎには手前の第 1 地点の大半が日陰になっていました。

右下写真は上と同じ時刻の 10 時 45 分頃の伐採作業後の状況ですが、日照が大きく改善されたことが分かります。しかし、まだ数本の高木が残っているので、今年の作業で伐採して、南側の日照は完全に確保する予定です。

指定地東端の第 7 地点は北に向かって低くなる緩やかな斜面になっていますが、南側の林縁部の木を伐採して大きく後退させました（下写真）。中央部分にナガバノイシモチソウが自生していますが、周辺部の除草と根の除去を行えば、自生



平成 29 年度作業前（2017 年 10 月 12 日：西から）



平成 29 年度作業後（2018 年 4 月 16 日：西から）



平成 29 年度作業前（2017 年 10 月 12 日）



平成 29 年度作業後（2018 年 4 月 21 日）

範囲が広がってくると予想しています。

右写真は指定地を東から見たところです。右上写真は作業前で、左側（南側）の木を広い範囲で伐採しました。陰になっているところは第6地点で、帯状に長くなっています。

第6地点はこれまではナガバノイシモチソウは散漫に分布していましたが、日照を確保することにより、自生密度の高い部分が増えてくると予想しています。

今年のナガバノイシモチソウの発芽は、4月14日に確認しました。第1～4、第7地点で発芽を確認し、総数810個体以上が確認できました。昨年（5月5日：59個体）よりも2週間程度早い発芽で、個体数もかなり多くなっています。

確認できるのは双葉から直交する補虫葉を伸ばし十字になってからです。全幅は2ミリ程度（下写真）で、少し離れると肉眼ではほとんど見えません。双眼鏡で観察しています。



平成 29 年度作業前（2017 年 10 月 12 日：東から）



平成 29 年度作業後（2018 年 2 月 18 日：東から）



発芽状態（全幅：2ミリ）



拡大（2018 年 4 月 16 日）